

研究課題	メタバースを活用した不登校児童生徒の支援と教員向けの双方向研修の構築
副題	～教育研修センターへの動画撮影スタジオ設置をとおして～
キーワード	
学校/団体名	公立むつ市教育研修センター
所在地	〒035-0071 青森県むつ市小川町2丁目19-1
ホームページ	

1. 研究の背景

当市では、「第2次むつ市教育プラン」において「ICTを活用した教育活動の充実」を推進の柱の一つとして取り組みを進めている。しかし、様々な理由から登校が難しい不登校および不登校傾向の児童生徒が年々増加しており、当市でも148名が在籍している。

また、学校や相談機関とつながりを持たない児童生徒も存在し、当市が県内で最も広い地域であることから、移動手段の確保が難しく、教育支援センターの利用が困難なケースもある。そのため、学びの場の保障や支援が十分に行き届かない状況にある。

さらに、当市の教育支援センターの利用者数は前年比2.6～4.3倍と大幅に増加しており、児童生徒一人ひとりに寄り添った支援の提供が難しくなっている。加えて、当施設の業務も逼迫しており、相談機関とつながっていない児童生徒へのアウトリーチが不十分な状態となり、支援を必要とする児童生徒に十分な対応ができていない。

また、当市には民間のフリースクールが存在せず、地域における唯一の相談機関となっていることから、不登校支援の体制が脆弱な状況にある。

そこで、当市の課題である地理的制約や、学校・相談機関とつながりを持たない児童生徒への支援を強化するため、メタバースを活用した不登校支援に注目した。本実践で使用するメタバースは、富士ソフトが提供する「FAMcampus」である。

「FAMcampus」は、顔出し・名前出しを必要とせず、利用のハードルを低く抑えられる可能性を持つことから、不登校児童生徒にとって有効なツールとなることが期待される。本実践では、メタバースを活用した不登校支援が実際に不登校児童生徒にとって有効であるかを検証し、自治体におけるメタバース活用のあり方を検討する。

2. 研究の目的

メタバースを活用した不登校支援において、どのようなアプローチが不登校児童生徒の支援に有効かを研究し、自治体としてのメタバース活用の在り方について示唆を得ることを目的とする。また、動画撮影スタジオを設置し、どのようなコンテンツを提供すればよいか検討する。

3. 研究の経過

当市では、メタバースを活用した不登校支援が初年度であるため、検証事業として実施した。以下は、今年度のメタバースを活用した不登校支援の取組である。

実施時期	実施内容	対象	備考
7月8日(月)	【辞令交付式】 ・メタバース教育相談室アドバイザー 辞令交付式 ・アドバイザーへのメタバース操作説明会 ・運営スタッフへの操作説明会	通室生 (アドバイザー)	
7月10日(水)	【メタバース登校トライアル1回目】 ・メタバース入室確認 ・オンライン授業(理科) ・オンライン授業(音楽) ・遠足の事前指導 ・振り返り	通室生 (アドバイザー)	
7月17日(水)	【メタバース登校トライアル2回目】 ・メタバース入室確認 ・オンライン授業(はじめてのロイロノート) ・オンライン授業(はじめてのCanva) ・オンライン授業(はじめての桃鉄～桃太郎電鉄 教育版 Lite ～日本っ ておもしろい!～)	通室生 (アドバイザー)	
7月18日(木)	アドバイザーからヒアリング	通室生 (アドバイザー)	
9月19日(木)	【申込開始】 ・むつ市公式SNSでの呼びかけ ・所属校を介さない申込 ・Google formによる申込受付	むつ・下北地区の 不登校児童生徒	※48名登録
10月2日(水)～ 12月27日(金) の毎週水・金曜日	【メタバース教育相談室】 ・1日2コマの授業 ・チャットでのコミュニケーション	むつ・下北地区の 不登校児童生徒	

表1 令和6年度メタバースを活用した不登校支援の取組

4. 代表的な実践

(1) メタバースを活用した不登校支援

メタバースのプラットフォームは、富士ソフトが提供する「FAMcampus」を用いた。以下に本実践で用いたメタバース教育相談室の外観(図1)を示す。

メタバース教育相談室は、オンライン授業教室 (A)、時間割掲示 (B)、今日のお知らせ掲示板 (C)、進路情報 (D)、おすすめの動画 (E)、たまり場 (F) で構成されている。たまり場に関しては、アドバイザーからヒアリングした意見を参考に、追加で実装した。



図1 メタバース教育相談室全体図

(2) メタバース教育相談室アドバイザー辞令交付式

10月から学校や相談機関とつながっていない児童生徒を対象としたメタバース教育相談室を始める前に、7月にトライアルを実施した。当事者の声を反映させるため、市で運営している教育相談室の利用者（以下「通室生」という）にアドバイザーを委嘱し、不登校の児童生徒と共に創るメタバース教育相談室を目指した。



写真1 メタバース操作説明会

辞令交付式終了後は、アドバイザー及び運営スタッフに向けた合同の研修会（写真1）を実施し、簡単な操作についてレクチャーした。

(3) メタバーストライアル

通室生（アドバイザー）を対象に、トライアルを2回行った。実施時間、内容については、以下のとおりである。

① 1回目（7月10日）

9:20～ 9:40	メタバース入室
9:40～10:00	オンライン授業（理科） てこのはたらき
10:00～10:15	休憩
10:15～11:00	オンライン授業（音楽） SunoAIを用いた曲づくり
11:00～11:10	やすみ



写真2 メタバースの様子

- 11:10～11:30 遠足の事前指導
 - 11:30～11:50 振り返り（仲間とチャット）
 - ②2回目（7月17日）
 - 9:20～ 9:40 メタバースに入室
 - 9:40～10:25 オンライン授業「はじめてのロイロノート」
 - 10:25～10:40 休憩
 - 10:40～11:40 オンライン授業「はじめての Canva（キャンバ）」
 - 11:40～12:00 ふりかえり・明日の連絡
 - 12:00～13:00 お昼ごはん・休憩
 - 13:00～14:00 オンライン授業
 - 「はじめての桃鉄～桃太郎電鉄 教育版 Lite
 - ～日本っておもしろい！～」
 - 14:00～14:20 ふりかえり・コメント記入
- いずれも、利用する児童生徒が興味関心を抱くような内容となるよう構成した。

(4) メタバース教育相談室申込の工夫

メタバースを活用した不登校支援を行う他自治体の課題として、不登校児童生徒への周知が挙げられる。不登校児童生徒の所属校を介しての案内をした場合、不登校のレッテルを貼ってしまう等の印象を与えてしまう懸念があることから、周知が難しいとされている。そこで、当市では、当市公式SNS、HPを活用し周知を行い、申込を行った。また、ポスター（図2）を市所管の施設に置き、申込を募った。



(5) メタバース教育相談室

10月2日（水）～12月27日（金）の毎週水・金曜日にメタバース教育相談室を開設した。利用する児童生徒がまた来たいと思えるよう、週2回に限定し、午前2コマのオンライン授業を実施した。なお、オンライン授業は、大手学習教材会社に委託し、行った。以下は、ある月の時間割である。児童生徒が学びへ興味関心をもってもらうことを主眼に、時間割（表2）を構成した。

今月の時間割

	12/4 水	12/6 金	12/11 水	12/13 金	12/18 水	12/20 金	12/25 水	12/27 金
10:00-10:20	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR
1時間目 10:20～11:05	音楽って どうやって 作るの？	自分の誕生石 をみてみよ う！	動物を分けて みよう	色々な石を見 てみよう！	物語を読んで みよう (朗読の時間)	これまでの心 理学をふりか えろう！	歌の上手い 人ってどんな 人？	今年をふりか えろう・来年 のちくひよ う！
2時間目 11:15～12:00	漢字クイズ①	ものが浮か ぶってどうい うこと？	おはなし創作 ③	ネットで楽し くすごそう	漢字クイズ	重たいとつづ れるのは？	おはなし創作 ④	ICTってな に？

表2 時間割（12月）

5. 研究の成果

(1) 当事者の意見を聞くための辞令交付式、トライアルの実施

メタバース教育相談室の運営に当事者の意見を反映させるため、市教育支援センターを利用する児童生徒にアドバイザーを委嘱した。アドバイザーからは、以下のような意見が寄せられた。

① 授業以外の交流の場の必要性

アドバイザーの児童生徒から、授業時間以外にもビデオ通話などで交流したいとの要望があった。そこで、授業終了後に交流の時間を設けたところ、互いの部屋を見せ合ったり、自分の好きなことを紹介したりと、活発な交流が見られた。授業のように決まった時間の学びも必要だが、カジュアルに交流できる場を設定することの重要性が明らかになった。

② 選択肢の一つとしての利用

アドバイザーの児童生徒からは、「選択肢の一つとして利用したい」「家にいても身近に感じられて良い」といった声があった。不登校児童生徒にとって、多様な学びの場の一つとして自治体がこうした選択肢を提供する意義が確認された。一方で、あくまでも選択肢の一つに過ぎず、不登校支援の中心ではないことも再認識された。

(2) 公式 SNS を用いた周知

前述のとおり、不登校児童生徒の所属校を通じて案内を行うと、不登校のレッテルを貼られる印象を与える懸念があるため、周知が難しいとされている。そこで、本市では公式 SNS やホームページを活用して周知を行い、申し込みを受け付けた。その結果、48 名が登録し、不登校児童生徒の 32.8% が参加することとなった。これにより、周知の効果があつたと考えられる。

また、メタバースを活用した不登校支援について積極的にプレスリリースを行ったところ、報道各社が取り上げ、テレビや新聞などによる周知にもつながった可能性がある。

(3) 申込者の様子から

申込者のうち、特に効果が大きかったと考えられる 2 名の生徒について、以下に記述する。

① 生徒 A

市内中心部から離れた場所に住んでおり、市の教育相談室に通うことが困難だった。また、対面での支援が苦手なため、学校や相談機関に行くことが難しく、登校は数回にとどまっていた。

しかし、平均週 2 日・1 コマずつオンライン授業を受け続ける中で、市の教育相談室を月 1 回のペースで利用するようになり、親子行事にも参加するなど、対面での支援につながった。さらに、学校への登校も複数回できるようになった。

② 生徒 B

中学校入学後、一度も登校していなかったが、弟が申し込んだことをきっかけに、自身もメタバースを活用した不登校支援に申し込んだ。弟は継続利用には至らなかったものの、生徒 B は継続的にオンライン授業に参加した。所属校が出席扱いとしたことで、本人は出席する喜びを見出し、平均週 1 日のペースでオンライン授業に取り組むようになった。

6. 今後の課題・展望

(1) 不登校児童生徒の多様な生活スタイルへの対応

本実践では、オンライン授業の時間を毎週水曜日と金曜日の 10:00～12:00 に設定し、メタバース教育相談室を運営した。でも、午前中の時間設定だったため、この時間に起きていない児童生徒は参加できなかつたり、気持ちが安定せず参加する気分になれなかつたりすることがあったと、保護者から報告があった。

(2) オンライン授業、コンテンツと不登校児童生徒のマッチング

オンライン授業を実施する授業者や授業コンテンツと、不登校児童生徒の興味・関心を擦り合わせるのが難しいと感じた。今回は、少しでも学びに興味を持ってもらうことを主眼に時間割を作ったが、興味を持たなかった児童生徒もいた。例えば、探究を軸にした時間割を作ることで、継続的に学べるような工夫やコンテンツのシリーズ化などが考えられる。

また、参加者はオンライン授業だけでなく、他者とのコミュニケーションも求めている。他の自治体では、「オンライン昼ご飯」のようなカジュアルなオンライン交流が成功している事例もあるため、今後はこうした取り組みも追加する必要がある。

7. おわりに

当市は青森県内で最大の面積を有するため、中心部から離れた地域に住む児童生徒は、市の教育相談室を利用しにくい。本実践で導入したメタバースを活用した不登校支援は、そうした地理的な制約を解消する可能性を秘めている。本実践を通じて多くの課題が明らかになったが、自治体における不登校支援は喫緊の課題である。メタバースを活用した不登校支援事業の成果と課題を踏まえ、次年度の実践に生かすことが求められる。

8. 参考文献

・特になし